

2 受療率

全国の受療率（人口10万対）は、「入院」1,036、「外来」5,675である。

(1) 性・年齢階級別

性別にみると、入院では「男」972、「女」1,096、外来では「男」4,953、「女」6,360となっており、年齢階級別にみると、入院では「65歳以上」2,734、「75歳以上」3,997、外来では「65歳以上」10,369、「75歳以上」11,899となっている（表4、統計表4）。

表4 性・年齢階級別に応じた受療率（人口10万対）

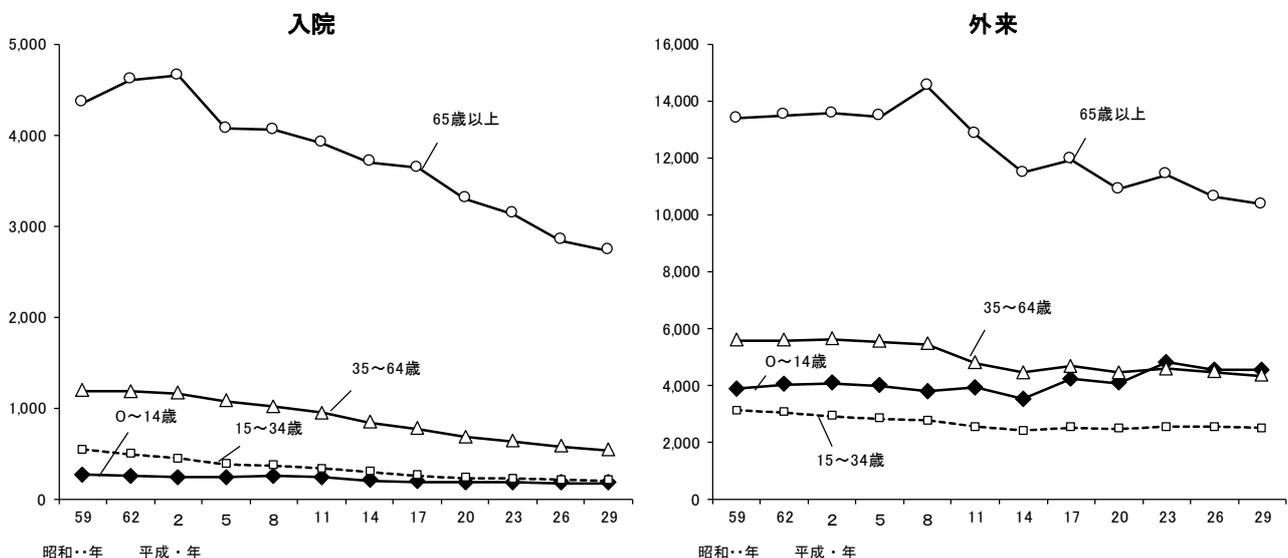
年齢階級	入院			外来		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	1 036	972	1 096	5 675	4 953	6 360
0歳	1 167	1 208	1 124	7 276	7 439	7 105
1～4	169	191	146	6 517	6 670	6 354
5～9	86	94	77	4 377	4 495	4 253
10～14	94	100	86	2 764	2 899	2 623
15～19	113	116	110	1 923	1 734	2 123
20～24	158	134	182	2 108	1 599	2 648
25～29	235	159	314	2 751	1 882	3 663
30～34	291	199	385	3 104	2 104	4 138
35～39	296	248	346	3 203	2 260	4 173
40～44	311	327	296	3 362	2 668	4 075
45～49	398	442	354	3 782	3 072	4 507
50～54	552	628	475	4 481	3 802	5 167
55～59	758	888	628	5 233	4 464	5 998
60～64	997	1 188	811	6 279	5 710	6 832
65～69	1 305	1 560	1 067	7 824	7 297	8 317
70～74	1 712	2 002	1 457	10 174	9 661	10 626
75～79	2 448	2 715	2 233	12 123	11 764	12 410
80～84	3 633	3 818	3 505	12 551	12 745	12 414
85～89	5 326	5 409	5 285	11 608	12 075	11 368
90歳以上	7 815	7 433	7 936	9 968	10 339	9 850
(再掲)						
65歳以上	2 734	2 699	2 760	10 369	9 977	10 670
75歳以上	3 997	3 868	4 080	11 899	12 023	11 820

平成29年10月

注：総数には、年齢不詳を含む。

年齢階級別にみると、入院、外来ともに「65歳以上」が最も高くなっているが、年次推移では低下傾向となっている（図5、統計表4）。

図5 年齢階級別に応じた受療率（人口10万対）の年次推移



注：1）平成23年は、宮城県、石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。
2）数値は、統計表4参照。

(2) 傷病分類別

傷病分類別にみると、入院では、高い順に「V 精神及び行動の障害」199、「IX 循環器系の疾患」180、「II 新生物<腫瘍>」112となっている。外来では、「XI 消化器系の疾患」1,021、「IX 循環器系の疾患」702、「XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患」692となっている。(表5、統計表5)

表5 傷病分類別にみた受療率(人口10万対)

平成29年10月

傷病分類	入院			外来		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	1 036	972	1 096	5 675	4 953	6 360
I 感染症及び寄生虫症	16	16	16	134	126	141
結核 (再掲)	2	3	2	1	1	1
ウイルス性肝炎 (再掲)	1	1	1	14	14	14
II 新生物<腫瘍>	112	130	95	197	189	204
悪性新生物<腫瘍> (再掲)	100	119	81	145	158	132
胃の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	10	14	6	16	22	9
結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	15	17	13	23	28	19
肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	5	7	3	4	6	3
気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	14	20	9	13	17	10
乳房の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	4	0	9	22	1	42
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5	4	5	17	9	24
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	26	23	29	350	309	388
糖尿病 (再掲)	15	15	15	177	203	152
脂質異常症 (再掲)	0	0	0	117	70	161
V 精神及び行動の障害	199	197	201	206	194	217
血管性及び詳細不明の認知症 (再掲)	22	17	26	9	6	12
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (再掲)	121	121	121	49	53	46
気分[感情]障害(躁うつ病を含む) (再掲)	24	18	29	71	60	81
VI 神経系の疾患	100	86	113	130	108	151
アルツハイマー病 (再掲)	39	26	51	37	19	54
VII 眼及び付属器の疾患	9	8	10	283	217	345
VIII 耳及び乳様突起の疾患	2	2	2	78	66	90
IX 循環器系の疾患	180	169	192	702	644	756
高血圧性疾患 (再掲)	4	3	6	511	439	578
心疾患(高血圧性のものを除く) (再掲)	50	48	53	106	117	95
脳血管疾患 (再掲)	115	106	124	68	71	65
X 呼吸器系の疾患	76	83	69	497	479	514
肺炎 (再掲)	28	30	27	6	7	5
慢性閉塞性肺疾患 (再掲)	6	8	5	14	19	9
喘息 (再掲)	3	2	3	96	90	101
XI 消化器系の疾患	52	57	47	1 021	890	1 144
う蝕 (再掲)	0	0	0	219	194	242
歯肉炎及び歯周疾患 (再掲)	0	0	0	370	308	429
肝疾患 (再掲)	6	6	5	21	23	20
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	9	8	10	240	215	263
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	56	43	69	692	522	853
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	40	39	41	254	242	265
慢性腎臓病 (再掲)	19	21	17	113	150	78
XV 妊娠、分娩及び産じょく	14	・	28	12	・	23
XVI 周産期に発生した病態	6	6	5	2	3	2
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	4	5	4	11	11	11
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	11	9	14	62	52	72
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	109	82	134	236	233	238
骨折 (再掲)	77	45	108	78	65	90
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	10	6	12	553	443	656

(3) 都道府県別

都道府県(患者住所地)別にみると、入院では、「高知」が2,101と最も高く、次いで「鹿児島」1,880、「長崎」1,803となっている。また、「神奈川」が706と最も低く、次いで「東京」745、「埼玉」753となっている。

外来では、「佐賀」が7,115と最も高く、次いで「香川」6,952、「長崎」6,812となっている。また、「沖縄」が4,586と最も低く、次いで「京都」5,014、「長野」5,033となっている。(図6)

図6 都道府県(患者住所地)別にみた受療率(人口10万対)

平成29年10月

